

神戸市立道場幼稚園 学校評価報告書

【教育目標】 やさしく たくましく 自ら活動する子 ~思いやりのある子 意欲的に遊ぶ子 のびやかに表現する子~

内容	重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた次年度の重点的な取組みの案
育てたい幼児の姿	思いやりのある子	4	<ul style="list-style-type: none"> ・全園児で遊ぶ「にこにこタイム」の実践は、挑戦する意欲や思いやりの気持ちの育ちにつながった。自己を発揮し、集団で遊ぶ中で楽しさを感じる取組となった。 ・小学生との交流で刺激を受け、経験したことを自分たちの遊びに取り入れて楽しんだ。また、温かくかかわってもらふ心地よさを感じるとともに、小学生に憧れや親しみの気持ちをもつようになった。 ・ふれあい昼食会交流や農業体験などを通して地域の方々との親しみを深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な取組の中に楽しみながら「思いやり」や「意欲」につながる工夫がある。全職員で努力されている。 ・思いやりの土台は環境である。この3つの土台ができています。 ①自然の中で命を大切にすることを育む園庭環境。 ②地域の方々の温かいまなざしがある地域環境。 ③他者理解ができていく人的環境。 ・少人数のよさは、互いのことが分り合える関係性である。思いやり、安心・安全につながる。 ・生活発表会で、友達を待ったり助けたりする姿に成長を感じた。また、地域の方が我が子のように温かく見守ってくださり嬉しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児数が減るが、幼児期に必要な経験を保障するためにも、本園の強みである少人数のよさを活かした取組を工夫する。 ・小学校との交流を近隣の保育園との合同で行い、相互の連携や接続を推進する。 ・合同保育「にこにこタイム」のねらいを明確に設定し、職員間で共有しながら実践を積み重ねる。 ・地域との交流の意義を見直し、幼児にとってさらに充実した活動にする。
	意欲的に遊ぶ子	3	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生の心地よさを感じながら、存分に体を動かし多様な遊びを楽しんだ。 ・竹馬や縄跳びなど、すぐにはできるようにならない遊びにも、繰り返しやってみようとする意欲がもてるようになった。粘り強く取り組む気持ちを支える教師の援助が、幼児の達成感につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の環境を活かし、挑戦意欲の向上につなげている取組がよい。 ・素晴らしい環境を何とか次世代につなげてほしい。 ・自分たちで考えて行動する集団は伸びる。幼児の限界を大人が決めるのではなく、達成感を得られる経験を大切にしてほしい。 ・道場幼稚園の幼児たちは、何かを作り出す意欲がある。千刈ダムまで歩いた経験は、小学生になった今も子供の自信となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生の園庭のよさを活かし、思い切り心と体を動かして遊ぶための環境構成を教育課程に位置付け、PDCAサイクルを行う。 ・幼児一人一人の好奇心や意欲、自信を大切にしたい、楽しい幼稚園生活となる取組を推進する。
	のびやかに表現する子	3	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい意欲がわく、感動体験を積み重ねる ・身近な自然環境にふれ、実体験を通して命を大切にすることを育む ・話を聞こうとする気持ちを育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が自然環境に主体的にかかわり、心を動かし、命を大切さを感じる経験を積み重ねた。 ・幼児の「つくりたい」「伝えたい」などの思いが実現できる環境を整えたり、幼児の気持ちに寄り添って保育を進めたりすることが、一人一人の豊かな表現につながっている。 ・感動体験を通して伝えたい気持ちが膨らみ、伝わる楽しさを感じられるようになった。相手の話を聞こうとする気持ちは継続して育みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の多い豊かな道場の環境は、幼児の心を癒す力がある。この環境を維持してほしい。 ・自分の意見をはっきりと言える場が小さい頃からあればよいと思う。発達に応じて、ディベートのような教育時間も大切にしてほしい。 ・生活発表会を参観して、幼児の自主性や臨機応変に考えて表現する姿に成長を感じた。4、5歳児が共に育ち合っている。
研修	質の高い幼児教育の実践	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保育を見合い、幼児の姿について話し合う研修の機会を定期的に行った。それぞれの教員が援助のあり方を見直し、保育力向上につなげている。 ・道場小学校との教員研修は、子供の姿を通して相互理解を深める幼小接続の機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各先生が能力向上に努めている。ますますレベルアップを目指してほしい。 ・教員研修で劇遊びを創っていく様子を観望し、学びになった。 ・幼児教育は教育の根幹だと感じる。子供たちの主体性の育ちを小学校でも大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で保育を振り返ったり、幼児の姿について話し合うカンファレンスを継続すると共に、互いに学び合う関係性を大切にする。 ・幼稚園公開日に小学校教員や地域の方に自由に参観していただけるよう、発信していく。
推進すべきこと	①教職員の業務改善	2	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会の資料や保護者配付物をペーパーレスにし、業務改善につなげた。 ・業務改善の意義を意識して、さらに“当たり前”“当然なこと”を見直していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化は、どの施設でも進めていきたい取組である。 ・更に業務改善が必要なこともあると思う。頑張してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データで残せるものを精選し、紙の記録媒体を削減する。 ・引き続き、業務改善の意識向上を目指す。
	②「すぐー」の活用、ホームページにおける情報発信	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「すぐー」を活用した保護者へのデータ配信や保護者アンケートの実施は、好評を得ている。 ・ホームページにおいて、預かり保育やみんなの幼稚園の拡充など、ニーズに応じた情報発信を心掛けた。みんなの幼稚園の参加人数の増加につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化は必須である。 ・若い保護者の方々にとっては、便利なツールである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着してきた「すぐー」の配信を、さらに活用する。
	③学校生活のルールや決まり(校則など)について	3	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の研究を活かした避難訓練の見直し、親子の防災意識を高める取組を行った。 ・遊びや生活の中で互いの意見を出し合い、みんなが楽しく過ごすためにどうすればよいかを考える機会を積み重ねた。葛藤やつまづきは、育ちに欠かせない経験として丁寧な援助を心掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識向上につながる避難訓練は必須である。児童館との合同訓練も検討していきたい。 ・自由な発想で育ってほしい。自分の好みを出せるような環境づくりを推進していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の避難訓練を見直すと共に、地域との防災訓練の機会を検討し、幼児の安心・安全につながる環境づくりを進める。 ・幼児の気付きや考えを集団の育ちにつなげていく援助を、大切にしたい。